



タゴールの歌と舞

～ベンガル語の響きとインドの旋律～



◆奥田由香(タゴールソング)

インド国立ヴィシュババラティ大学・大学院卒業。タゴールソング、インド音楽美学を専攻。現在、東京外国語大学、外務省、大使館などでベンガル語、タゴールソング指導、通訳・翻訳、コンサート活動を行う。
大倉山記念館にてタゴール150周年記念祭に出演('11)、ワークショップ“ベンガルの故郷を歌う”('18)主催。

◆シュクリシュナ石井(タゴールダンス)

曾祖父、祖父がタゴールと深い関わりがあったことから、幼少期よりタゴール文学、音楽、舞踊に触れ、影響を受けてきた。カルカッタ大学で心理学、ヴィシュババラティ大学でテキスタイルデザインを専攻。その他、インド音楽、舞踊、日本語を学ぶ。1987年来日以降、沼津、三島を中心にインド文化講演会、タゴールダンス、インド刺繍、料理、ベンガル語、英語指導など行う。

◆久本政則(タブラ)

北インド古典音楽、タブラ奏者。コルカタ出身シタール奏者Amit Ray氏と全国各地での演奏を始め、ジャンルを超えた音楽、在日ベンガル人協会主催イベントなど幅広く演奏活動を行う。

◆ワークショップ参加者:

天野恭子、石井香里、川邊貴英、桐山日登美、草加登起夫、坂間至朗、佐々木理香、山東良子、塩原節子、末森敬子、高橋実万、中川千佳子、後岡和代、野村直子、広瀬圭子、村尾草苑子、渡辺まさえ

◆日時:7月14日(土) 14時～15時半

◆会場:横浜市大倉山記念館ホール

◆定員:60名(事前予約制)

◆参加費:無料

◆内容:◇心の交流 タゴールと邦彦

◇タゴールソング解説

◇ワークショップ参加者による課題曲の発表

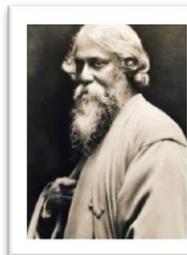
◇演奏家による演奏と踊り

◆予約:大倉山記念館(窓口・お電話)

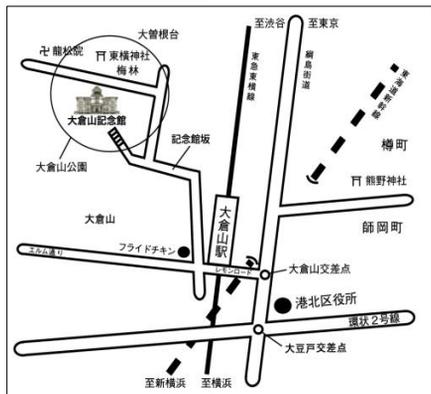
045-544-1881

※6月6日(水)10時よりお申込受付開始

※定員になり次第締め切りになります。



アジア初のノーベル文学賞受賞者として知られるタゴールが作詞作曲したタゴールソング。人々の心に寄り添い、味わい深い人生の悲喜こもごもを詠う。



《交通アクセス》

東急東横線「大倉山駅」下車、徒歩7分

※一般ご来場者の駐車場はございません。

ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

◆タゴールと大倉邦彦について

大倉山記念館は、昭和7年(1932)に「大倉精神文化研究所」本館として竣工しました。創立者は、実業家で、のちに東洋大学学長も務めた大倉邦彦(1882-1971)です。タゴールと邦彦は、生涯にわたって精神的な深い交わりを持ちました。

タゴールは昭和4年(1929)5月に来日した際に、目黒にあった邦彦の邸宅に約1ヶ月間滞在します。この間、邦彦は、当時進めていた研究所の設立計画について、タゴールに熱く語り合ったそうです。研究所設立の精神の一つに「東西文化の融合」が掲げられているのは、タゴールの影響と言われています。

そして昭和33年(1958)、生誕100周年を祝うタゴール記念会が日本で組織された際には、大倉邦彦が理事長に就任し、タゴール研究室が大倉山記念館の中に設置されました。

大倉精神文化研究所では、タゴールから邦彦に贈られたサイン入りの著書やモデル・シップなど、タゴールにゆかりある資料を多数所蔵しています。現在、タゴールと邦彦の交流を紹介する資料展を、右記の通り、開催しています。



タゴール(右)と大倉邦彦(左) 昭和4年5月19日 大倉邸にて

第37回研究所資料展「心の交流 タゴールと邦彦」

- 会 期：平成30年4月27日(金)～平成30年10月20日(土)
- 時 間：午前9時30分～午後4時30分
- 休館日：日曜・月曜・祝日（7/17休館、9/9開館）
- 会 場：大倉精神文化研究所附属図書館
- 入場料：無料

◆大倉山記念館について

ギリシャ神殿風の西洋的外観と東洋的な木組み内装の建物で、横浜市指定有形文化財に指定されています。会場となるホールは、木組みの天井が見所で、大倉山記念館の施設でも見学の希望の多い施設です。



横浜市大倉山記念館外観



発表会・演奏会会場のホール